

老後のお値段

HOW MUCH?

旅 熟年離婚 高齢者向け住まい リフォーム 遺言 葬儀 お墓

「最後までよりよく生きる」ための保険提案

現在、働き盛りの40代～50代も、やがては定年を迎え、「第2の人生」に踏み出すことになる。彼らが退職後の生活設計を考える際、一番気になるのは「将来、何に、いくらかかるのか?」ということだろう。一般的・平均的な統計データはあっても個々の事情や考え方によって金額は異なるので、必ずしも全ての人に当てはまるとは限らない。本稿では、FPとして活躍するNPO法人らしさのメンバーが集めた人生後半期の実例を紹介。顧客がどのようなライフプランを持っているのかを聞き出すためのきっかけとして、具体的な情報を得るためのヒントとして活用していただけたら幸いである。

※本稿におけるデータは、個々のケース特有のものであり、標準的・一般的なものとは限りません。



構成 ● NPO法人らしさ

はじめに 老後資金を考えるにあたって

万一のためから、よりよく生きるための「長寿」に備えた保険が主流に

生命保険の役割は、死亡リスクの備えから、病気や老後の生活費などの長生きリスクの備えへと、大きな変化を迎えている。2008年3月末の医療保険、がん保険、個人年金保険を合わせた契約件数は5,326万件、年度末ベースで初めて死亡保険を逆転した（2008年6月24日付日経新聞より）。子育てが終わりつつあるシニア世代では、特にその傾向は顕著である。保険販売においても、今までとは違ったアプローチが必要になっているといえるだろう。

日本人は高齢化の道を順調に歩んできた。人生は80年から90年、100年の時代へと医療の発展とともに長期化している。人生の後半が長くなったことと国民の生活が豊かになったことにより、各人のライフプランも多様化してきたのである。老後期間が短い時代には、子に生活の面倒を見てもらって、孫の相手でもしてのんびり過ごせば良かった。しかし、リタイア後の時間が長くなった現代では、その期間をいかに過ごすかが最終的な人生の満足度を高める要因となる。

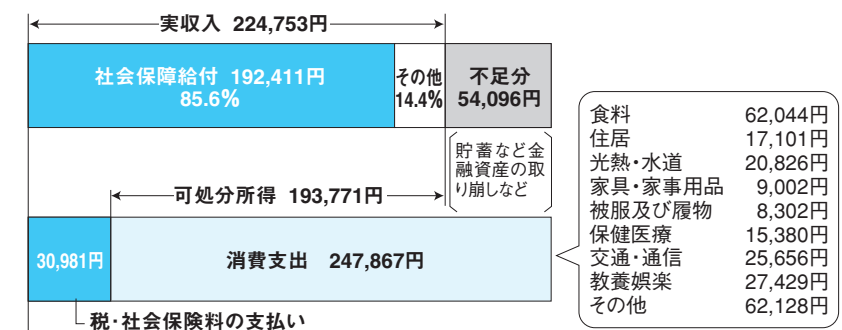
本稿では、人生の後半期に起こりうるイベントやトラブルにかかる費用を、実例をもとに説明している。ほんやりとしか浮かばないリタイア後の費用を、具体的にイメージするために利用していただきたい。通り一遍のアドバイスではなく、この世代特有のニーズや悩みに答えて、オリジナルなライフプランニングを提供することで、顧客の満足度を高めることができるだろう。

（山田静江）

リタイア後に必要なお金の実情と考え方

保険販売では、顧客のライフプランニングをサポートすることが求められる。「リタイア前後はどんなことにどれくらいお金がかかりますか?」と聞かれた時、平均的な費用や一般的な費用を提示するだけでは、老後のことを真剣に考えている顧客に満足してもらえないだろう。それぞれの事情やニーズに沿って、具体的かつ適切なアドバイスができれば、顧客との信頼関係構築にも役立つのではないだろうか。

図表1 高齢無職世帯の収入と支出（平成18年）



「年金問題」が連日のようにマスコミを賑わしている。社会保険庁から送られてきた「ねんきん特別便」の書類を見て、「将来、年金と老後の蓄えだけで生活できるだろうか?」と不安になる方も多いことだろう。当然ながら、年金の受給額は現役時代の収入と比べると大幅な減少となるからだ。総務省統計局「家計簿からみたファミリーライフ」（図表1）の「高齢無職世帯の収入と支出」を見ると、平均支出は月約27.8万円で、それを20万円弱の年金と預貯金の取り崩しによって賄っていることがわかる。

旅

人気のクルージング。リッチに豪華客船で世界一周は1,200万円

「定年後（老後）に健康等の心配なくお金を使えるとしたら、何に一番使いたいですか?」というアンケートによると、男性、女性とも60%以上の方が国内・海外への旅行を挙げている（図表2）。定年後は自由に使える時間が飛躍的に増える。健康に不安がなく、お金に余裕があれば、まさにゴールデンタイムである。

クルーズ代金の差は部屋代にあり

時間、費用の両面で「究極の贅沢な旅」といえるのが、豪華客船による世界一周クルーズがある。約3カ月（100日間）をかけ、20カ国前後の国を巡る船旅である。さて、気になるお値段であるが、日本発のもので1人300万円～1,200万円である（図表3）。

図表2 定年後、一番お金を使いたいこと

	男 性	女 性
1位	国内旅行 (35%)	海外旅行 (37%)
2位	海外旅行 (32%)	国内旅行 (33%)
3位	住宅のリフォーム (7%)	住宅のリフォーム (7%) エンタメ (音楽・映画・美術など) (7%)

生活情報リサーチサイト「TEPORE (テポーレ)」(東京電力)
URL ● <http://www.tepore.com/>



クルーズの代金には、宿泊費、食事代、船内の各施設の利用料、エンターテイメント・イベント参加費など、船内で過ごすのに必要なほとんどの代金が含まれている。値段の差は基本的には部屋代の差である。

クルーズには興味があるが、世界一周クルーズは長いし費用がかかり過ぎるという方は、国内クルーズに参加してはどうだろう。横浜～鳥羽～鳥島沖周遊～横浜（3泊4日）で旅行代金は一人10万8,000円～48万円である。

クルーズには興味があるが、世界一周クルーズは長いし費用がかかり過ぎるという方は、国内クルーズに参加してはどうだろう。横浜～鳥羽～鳥島沖周遊～横浜（3泊4日）で旅行代金は一人10万8,000円～48万円である。

図表3 にっぽん丸クルーズの旅行代金例

客室タイプ	代 金
ステートルームC	298万円
ステートルームB	340万円
ステートルームA	400万円
デラックスルームB	620万円
デラックスルームA	680万円
スイートルーム	1,160万円

*客室を2人で使用した場合（商船三井客船）

50歳からのSTUDY旅行

各旅行会社は熟年を対象に「安心」「充実」「ゆとり」のある旅、ワンランク上の旅を提案しているが、近頃では、さらに「テーマ性」を持たせた旅や知的好奇心を満たす「学習」体験を組み入れた旅行を企画して売り出している。

例えば、「50歳以上限定、『地中海に浮かぶマルタ島で英語と世界遺産を楽しむ16日間』(JTB)」は、2週間にわたって午前中はしっかりと英語のレッスン、午後はマルタ島の歴史散策などのスケジュール、ホテルは1人1部屋なので自分のペースで自由な時間を楽しみ、くつろぐことができる。ひとつところに長期滞在して学ぶ旅行は、普通の海外旅行では味わえない貴重な体験であり、良い思い出となることだろう。旅行代金は1人59万8,000円である。

**お得に楽しもう！
国内は2万5,000円から**

老後は自由な時間があることも強みである。早くから計

画を立てて早期割引を利用することも、あるいは出発日が迫ったバーゲン商品でお得な旅をゲットすることもできる。

繁忙期を避けた格安パックツアーならば、東京から国内ほとんどのところが約2万5,000円(往復航空券代金+ホテル宿泊費1泊付：一室2名利用の場合)から。最大8日まで帰りの便が延長可能であることを利用すれば、残りの宿泊先を自分で確保して8日間の旅行を格安で組み立てることができる。

ショート・コラム

バリアフリー旅行(介護付き旅行)

体力に自信がない方や歩行が困難な方、トイレが心配な方などでも安心して参加できる介護付きの海外旅行や国内旅行がある。パッケージツアーのみならず、オーダーメイドもできる。年齢、障害を超えて、旅を楽しもう！

(例) バリアフリー四国八十八カ所霊場巡拝・心の旅
(株) エスピーアイ「あ・える倶楽部」
電話 ● 03-6415-6480
URL ● <http://www.aelclub.com/>

(鬼塚信子)

図表5 離婚後の主なランニングコスト(Aさんの場合)

項目	年間費用
住居関連費	27万円
食費・雑費	90万円
水道光熱費	50万円
民間保険料	15万円
社会保険料 自動車維持費 冠婚葬祭費など	128万円
合 計	310万円

仮に53歳から
88歳までの35
年間継続すると、

1億850万円



65歳からの
年金収入との差額

不足額
8,550万円

出額のままだと、毎年200万円の不足となる。

年々減っていく貯蓄残高に愕然とし、専門家と顧問契約を結んで資産運用を考えることにした。幸い趣味にしていた分野で先生の資格を取得できたので、近々自宅で教室を開いて収入の足しにする予定だ。老後は元気なうちに自宅を売却し

て、シニア向けマンションに住み替えることを検討中。子ども達にも依存しない「自分らしい」道を少しずつ前向きに歩み始めている。

※相談事例に基づいていますが、特定の方のものではありません。

ショート・コラム

別れられない(?)保険

「契約者・被保険者=妻」の生命保険に加入し、引き落としの口座は夫の名義だった。だが、妻が浮気し、離婚。妻は出て行き、音信不通。せめて解約返戻金を受け取ろうと夫は保険の解約を試みるが、妻が契約者のためできない。口座の残高を0にし、失効させようとしても、契約者貸付制度が働き、解約返戻金は減る一方である。妻の実家を通じて、解約書類が届くのはいつだろうか…。

(野村貴子)

高齢者向け住まい

**リゾートホテルのような生活をお望みなら、
入居時2,200万円から、月額23万円から**



「最期まで自宅で」と望む人は多い。しかし、築30年を超える1軒家のメンテナンスは、年金暮らしの家計において大きな負担となる。また、子どもたちは独立してマイホームを持ち、夫を亡くした女性は、1人ボツンと残される。災害や盗難、悪質な訪問販売、そして介護が必要になった時など、1人暮らしのリスクは意外に侮れない。そこで、このところ多様化している、高齢者の住まいの一例を紹介しよう。

ビューティサロンやバーもある 理想の住まい

福祉先進国のデンマークでは、年金暮らしの世代を「グッドタイム」(最良の時)と呼ぶそうだ。

オリックス・リビング(株)では、高齢者のための住まいを提供する事業を行っている。元気な高齢者向けの賃貸住宅「プラテシア」と、介護が必要な人向けの有料老人ホーム「グッドタイムリビング」シリーズがある。

千葉県にある「プラテシア 千葉みなと」は、元気な高齢者向け賃貸住宅。フィットネススタジオをはじめ、サウナ&ジャグジー、リラクゼーションサロンやドッグランなど多様な設備が整っている。海側の部屋からは、富士山や

水平線に沈む夕日も眺められる。夫婦入居もできるし、要介護度が高くなったら併設の有料老人ホームに移ることも可能だ。

部屋の広さは約55㎡(1LDK)で、各部屋にキッチン、浴室、トイレ、ウォークインクローゼットが付いており、もちろんエアコンや緊急呼び出し電話なども完備されている。

一番高い部屋は、入居時に約2,300万円(12年償却プラン)、月額費用が賃料と共益費込みで約19万円。なお、多様な施設や各種サービスを利用するためには、別途「会員契約」の締結と入居時に約650万円および、月額利用料約9万円が必要になる。

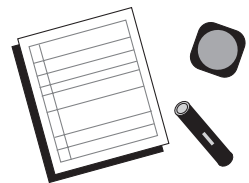
無料見学会や体験宿泊も行っていて、体験宿泊は1泊2日朝・夕食付きで1万500円(税込)。また、東京メトロ京橋駅直結の場所に「グッドタイム ギャラリー 東京」がある。ワンランク上のゆとりある暮らしとはどういうものか、一見の価値はあるだろう。

予算少なめでも、食事や見守りつきの ケアハウスなら安心生活

もともとケアハウスは、元氣だがひとり暮らしが難しい高

熟年離婚

**260万円かけて3,000万円GET！
専業主婦ならそれでも老後資金は不足**



「まさか自分が…」と振り返るAさん(53歳・女性)。

予想もしない出来事が現実となる。夫からの一方的な離婚宣告。証券会社勤務で、資産運用が当たり前の夫と、預貯金や保険のみの妻。直接的な理由は夫の浮気だが、金銭感覚のズレが最も大きな原因だ。弁護士会へ相談に行き、調停離婚へ。離婚までにかかった費用は約260万円だった(図表4)。

幸い、親権は妻、財産分与として約3,000万円と子ども達が大学を卒業するまでの教育資金は全額確保できた。また、妻が親から相続した持ち家に住んでいたため、引っ越しや家具などの出費、および新たな家賃は発生しなかった。個人資産もあり、恵まれた離婚となった。

しかし、収入を全面的に夫に依存していた専業主婦の立場から、突然、一家の大黒柱へと変わった戸惑いは大きい。夫が亡くなった場合と違って、死亡保険金や遺族年金などは当然もらえない。収入を得ようとパートで働き始めたが、

時給も仕事内容も不満で長続きしない。

一方で支出を減らすのは難しい。配偶者特約だった生命保険を入り直したために、保険料を新たに負担することになった上、大きな一戸建ては維持費の負担も重く、生活費を切り詰めてはいるものの年間支出は約300万円かかる。

不安なのが老後の生活費だ。離婚時の年金分割制度施行前で、年金分割分は一時金で受け取った。65歳以降にもらえる老齢年金を試算してもらうと年間100万円ほど。現在の支

図表4 離婚時の主な諸費用(Aさんの場合)

項目	費用
弁護士費用	相談料 5,000円
離婚手続等	100万円
探偵費用(浮気調査)	160万円
役所・裁判所への 移動交通費	実費
引っ越し代・家具代	なし

【事例から学んだポイント】

- 専業主婦ほど、老後資金計画が必要
- 夫婦別々での保険加入が望ましい